

CASBEE 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都学園太秦キャンパス	階数	地上4F
建設地	京都府京都市右京区山ノ内五反田	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	1,000 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年12月 0.0	評価の実施日	2013年10月22日
敷地面積	32,567 m ²	作成者	加藤均
建築面積	4,991 m ²	確認日	
延床面積	16,568 m ²	確認者	大村昌聡



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超 ☆

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み -85%

③上記+②以外の -85%

④上記+ -85%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2.4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.0**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.6**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 ■「人と人、人と緑のコミュニケーションキャンパス」を計画骨子とし、周囲に塀を設けない地域に開かれたキャンパスとし、誰もが利用可能な緑豊かな外構を整備する計画としています。		その他 0
Q1 室内環境 【光環境】 ・中庭側に面する部分の各階に庇を設置し、光環境の制御を行っている。	Q2 サービス性能 【維持管理】 ・床、壁に防汚性の高い仕上材料を選定している。 ・外壁の汚染防止のため、ホコリ溜まりとなる部分に水切を設置している。	Q3 室外環境 (敷地内) 【地域性への配慮、快適性の向上】 ・前面道路から建物を10mセットバックし歩道状の空地を設けている。 ・歩道状空地に沿って、軒庇を設け、周辺住民の待合等
LR1 エネルギー 【建物熱負荷抑制】 ・適切な外壁部の断熱計画により高いPAL値となる計画としている。 【自然エネルギー変換利用】 ・3kWの太陽光パネルを設置している。	LR2 資源・マテリアル 【水資源確保】 ・節水コマ、省水型機器を採用している 【部材の再利用可能性向上への取組み】 ・構造躯体、設備機器、内装仕上が容易に分離しやすい計画としている。	LR3 敷地外環境 【交通負荷抑制】 ・適切に自転車置場、駐車場、管理用駐車場を敷地内に設置している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■Locoの算定条件等については、「Loco算定条件シート」を参照されたい